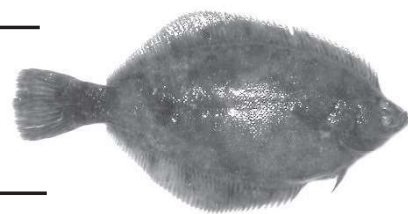


マコガレイ

Pseudopleuronectes yokohamae

地方名
くろがしら（八戸、陸奥湾）、
まがれい（陸奥湾、日本海）



生態

- ①寿命：10年以上
- ②成熟：3歳以上
- ③産卵期：陸奥湾では12月～翌年1月
太平洋では1月～3月
日本海では3月～4月
- ④産卵場：水深10m～60mの砂泥域
- ⑤分布：北海道南部以南から大分県付近、朝鮮半島南部、東シナ海
- ⑥生態：通常は水深100mより浅い砂泥域に生息。
食性は珪藻類、橈脚類、貝類、アミ類、ゴカイ類、甲殻類。

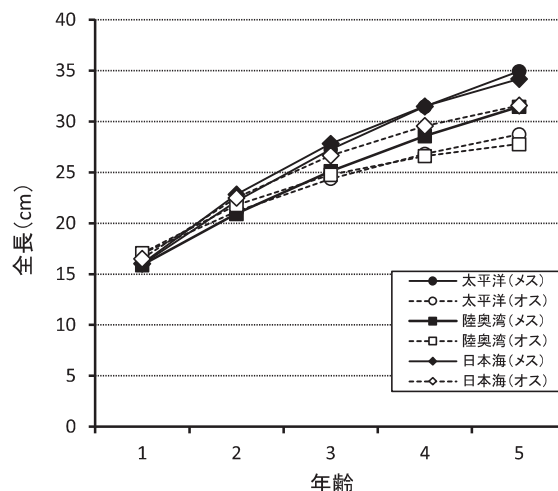


図 青森県におけるマコガレイの成長

出典：太平洋・陸奥湾：藤川（1998）H9資源管理型漁業推進事業報告書、21-35。
日本海：Kooka et al.（2000）北海道大学水産学部研究彙報、51、121-126。

主な漁業

底建網、さし網、底びき網で漁獲される。主漁期は太平洋と陸奥湾では12月～翌年2月、日本海では1月～4月で2歳から漁獲される。

漁獲の動向と水準

マコガレイの漁獲量は、青森県全体では2008年の557トン进行ピークに減少傾向が続き、2020年には196トンで1996年以降2番目に少なかった。漁獲金額は、1996年の4.4億円进行ピークに減少が続き、2020年には7,400万円と1996年以降2番目に低かった。

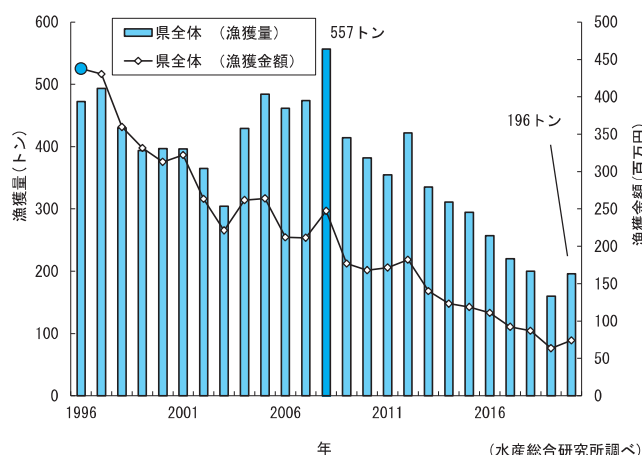
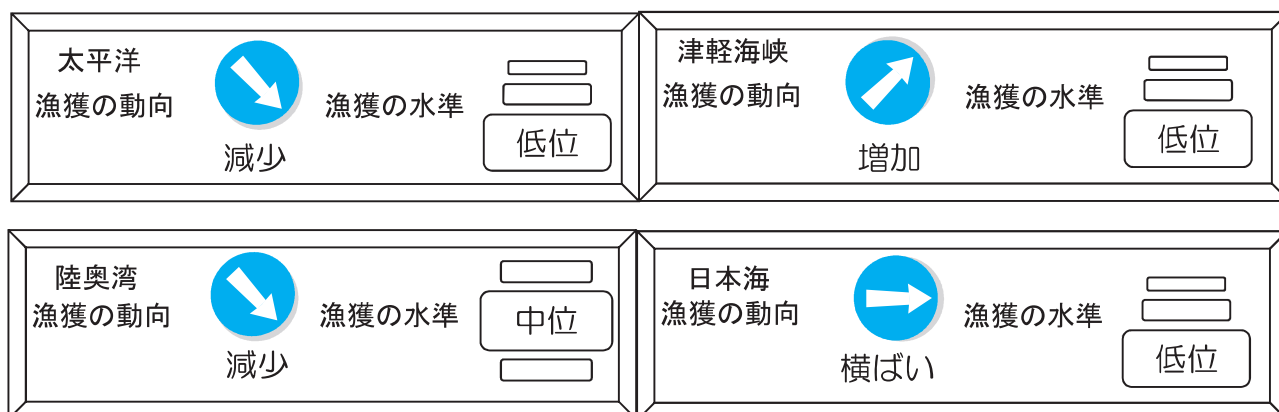


図 青森県におけるマコガレイの漁獲量及び漁獲金額の推移



海域別漁獲量及び漁獲金額

海域別漁獲量は、太平洋では2008年の324トンピークに減少し続け2020年に58トン、津軽海峡では1997年の90トンから2016年の13トンまで減少した後緩やかに増加傾向で2020年に20トン、陸奥湾では2009年以降横ばい傾向で2020年に95トン、日本海では2013年の59トンから減少し2020年に22トンであった。

漁獲金額は、全ての海域で1996年または1997年をピークに漸減傾向にあった。

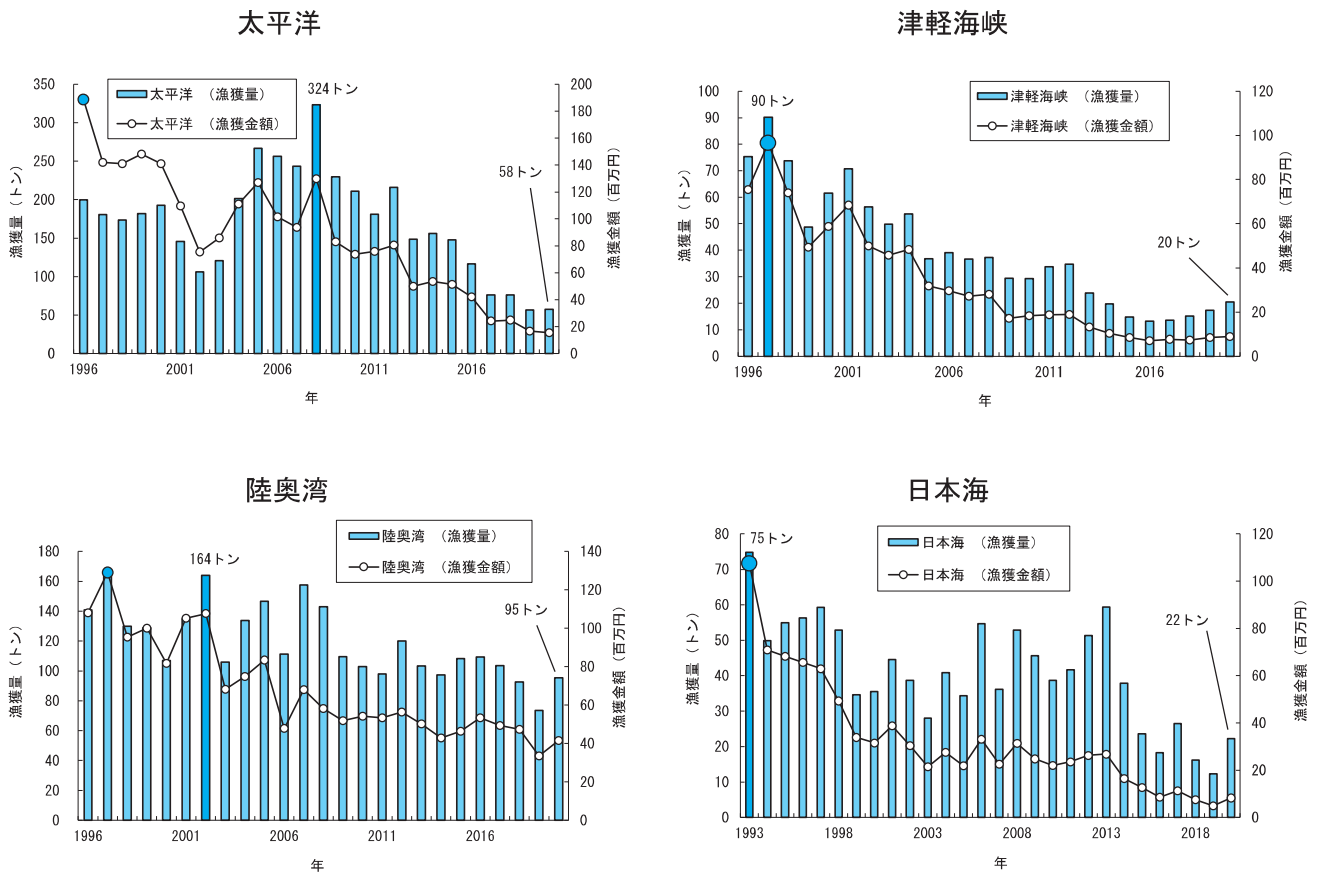


図 青森県におけるマコガレイの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移（水産総合研究所調べ）

資源を上手に利用するために

○マコガレイ資源管理計画（2001年3月）

・全長20cm未満個体の再放流、かれいさし網の目合制限（3.5寸以上）を定めている。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・本県に分布するマコガレイは、産卵期が太平洋、津軽海峡、陸奥湾、日本海でそれぞれ異なり、遺伝的にも異なる（水産研究・教育機構水産資源研究所）。
- ・野辺地町漁業協同組合では2011年から、車力漁業協同組合では2012年から、水産総合研究所への委託事業としてマコガレイの種苗放流事業を継続して行っている。